

令和元年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
多角化経営部門

畜産を中心とした6次産業化のパイオニア

○氏名又は名称 有限会社 船方総合農場（代表 坂本 賢一）

○所在地 山口県山口市

○出品財 経営（酪農・水稻等）

○受賞理由

・地域の概要

船方総合農場のある山口市阿東徳佐地区（旧阿東町）は、山口県北部に位置する中山間地域で、畜産をはじめ農業が盛んな地域である。当地区では、高齢化・人口減少が深刻で、主要産業の農業も農家人口・農業就業人口ともに今後10年で半減が見込まれるなど、担い手の確保が大きな課題となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

昭和44年に、現代表の父が酪農とシクラメン栽培を柱とする任意団体「船方総合農場」を設立したのが始まりである。47年に法人化し、酪農経営を中心に地域と連携しながら経営規模を拡大してきた。1次、2次、3次産業毎に別会社を設立し、グループで連携して約30年前から6次産業化を実践していた先駆的な事例である。

現代表の坂本賢一氏は、生産と消費の状況とバランスを見極め、これまでの規模拡大路線を見直し、現時点においてもっともグループの強みを活かせる適正規模へと転換を図った。転換に当たっては、グループ内での確に連携・補完することで、各社において利益が確保されている。

・受賞者の特色

（1）一頭管理による高い乳質・乳量の実現

毎月の乳量検定の結果により、牛群を3群に分類してTMR配合割合を独自に設計するなど、1頭ごとに管理している。WCSを含むTMRベースの飼料と産乳量に応じたトップドレスを連動スタンションにより給与している。その結果、乳脂肪率4%以上、搾乳牛1頭当たりの平均年間産乳量10,000kg以上を実現している。

（2）消費者視点を重視した6次産業化を実践

安心・安全な顔のみえる農産物づくりを土台に、通常の6次産業化の1次（生産）→2次（加工）→3次（販売・サービス）の順番ではなく、船方総合農場での生産の次に（株）グリーンヒル・ATOによる都市と農村の交流を行い、商品を製造する前に確実に購入する顧客を獲得してから、（株）みるくたうんにより消費者ニーズを踏まえた加工・販売を行っている。また、みどりの風協同組合による企画・調整機能も相まって、グループ全体で安定的な経営を実践している。

・普及性と今後の発展方向

6次産業化の先駆けとして全国の法人経営の模範となるような活動を展開。今後は、生産と消費のバランスを見極めた生産体制を維持するとともに、6次産業化の充実を図り、積極的な販路の拡大に取り組むこととしている。